

都市再生整備計画

あかま
赤間地区

ふくおか 宗像市
福岡県

令和2年4月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-

都道府県名	福岡県	市町村名	ひなかつし 宗像市	地区名	赤間地区	面積	143	ha							
計画期間	令和	2	年度	～	令和	6	年度	交付期間	令和	2	年度	～	令和	6	年度

目標

- 大目標:災害に強い都市基盤を整備するとともに、恵まれた教育環境や人々の交流が盛んな環境を活かし、地域住民と学生らが連携する場所や機会を創出することで地域の活性化を図り、市民らが安心して暮らせる魅力あるまちづくりを目指す。
- 目標1:地域防災拠点等の整備による災害対応力の向上
- 目標2:狭隘な道路整備により通学路や災害時の避難経路の安全性を向上させることで、市民らが安心して生活できる環境の整備
- 目標3:恵まれた教育環境を活かした地域活動や人々の交流を促進することで、魅力あるまちづくりを推進

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

本市は、市中央を貫流する釣川沿いの農地の後背となる丘陵地を中心に住宅開発を行ってきたため、市街地や主要な都市機能が分散して立地している。そのため、集約型の都市構造を形成するうえで、一極集中ではなく、地域の特性を踏まえた多極連携の集約型都市構造が適切であり、「コンパクトで魅力的な地域がネットワークする生活交流都市」を将来都市像に掲げ、その実現を目指すこととしている。

本市東部に位置する本地区は、教育分野において全国でも高い実績を誇る福岡教育大学と本市最大の生徒数を有する城山中学校があり「学生の街」を形成するとともに、国道3号・JR教育大前駅・西鉄バスセンターが近接する交通の要衝であり、歴史的な街なみが残る旧唐津街道沿いの赤間宿などの観光地を訪れる来訪者、地域住民、学生など人々の交流が盛んであることなどから、立地適正化計画において駅周辺を「地域拠点」に位置付け、地域住民や学生などのニーズに対応する都市機能が充実したまちづくりを目指している地域である。

しかしながら、このように多くの人々が居住、交流する地域であるにも関わらず、地区内には土砂災害警戒区域や釣川水系の洪水浸水想定区域が広範囲に介在している。また、人々の交流や地域活動等、それぞれの連携を図る環境が不足しており、それらを地域の活性化に繋げられていないことなどが課題となっている。

このことから、地域防災拠点や道路・公園などを整備することにより、災害に強い都市基盤の整備を行うとともに、地域住民と学生らが連携する場所や機会を創出し、市民らが安心して暮らせる魅力あるまちづくりを推進する。

まちづくりの経緯及び現況

赤間地区(JR教育大前駅周辺)には、教育分野において全国でも高い実績を誇る福岡教育大学と、本市最大の生徒数を有する城山中学校がある。

地域住民や学生らのニーズに対応した商業施設が集積し、いわゆる「学生の街」を形成している。

歴史的な街なみが残る旧唐津街道沿いの「赤間宿」や、「街道の駅赤馬館」などの観光施設があり、多くの来訪者が訪れる地区である。

国道3号線とのアクセスも良好で、JR教育大前駅と西鉄バスセンターが近接する交通の要衝であり、多くの市民が利用・生活する地区である。

宗像市立地適正化計画において、「地域拠点」に設定し、都市機能や居住の誘導を図ることとしている。

第2次宗像市総合計画において、安全な市民生活を確立するため、大雨、洪水、地震、がけ崩れ、津波、火災などの災害に対する総合的な防災都市づくりを推進し、災害に強い都市空間の形成を図ることとしている。

宗像市地域防災計画において、市民の生命、身体及び財産を災害から保護し、被害の軽減を図るため、避難場所の確保や避難誘導の方法などを定め、一連の防災活動等を適切に実施することとしている。

課題

- ・地区内には土砂災害警戒区域や釣川水系の洪水浸水想定区域が広範囲に介在しており、災害対応力の向上が求められている。
- ・災害が発生した場合に、被害を最小限に止めるためには、日頃から防災意識を高めておくことが重要である。そのため、防災意識を高めるための意識啓発や地域等で行っている防災活動に対する支援を行うことが必要である。
- ・子どもや高齢者を含むすべての人々の安全に配慮し、快適に通行できる道路を整備することが必要である。
- ・誰もが身近に利用できる公園は、人々に安らぎや潤いを与えるとともに、地域イベントや災害避難の利用等、多様なニーズに応える必要があることから、公園毎に地域の実情に応じ、機能強化を図ることが求められている。
- ・市民活動は多岐にわたり、それぞれは独自に活動していることから、それぞれが連携し、また、活動内容等を共有する場が不足している。さらに生涯学習による市民一人ひとりの学びの成果を活かす環境整備も十分ではない。そのため、それぞれの活動を繋ぐとともに、成果を活かす環境の整備が必要である。
- ・学校、家庭、地域等と連携しながら、児童・生徒の学習活動を充実させることができるよう開かれた学校づくり推進が必要である。
- ・福岡教育大学や特別支援学校(開校予定)など優れた教育機関を有しているものの、この恵まれた環境を活かし切れておらず、教育機関と地域とが連携を深めることで、更なる地域の活性化が期待できる。

将来ビジョン(中長期)

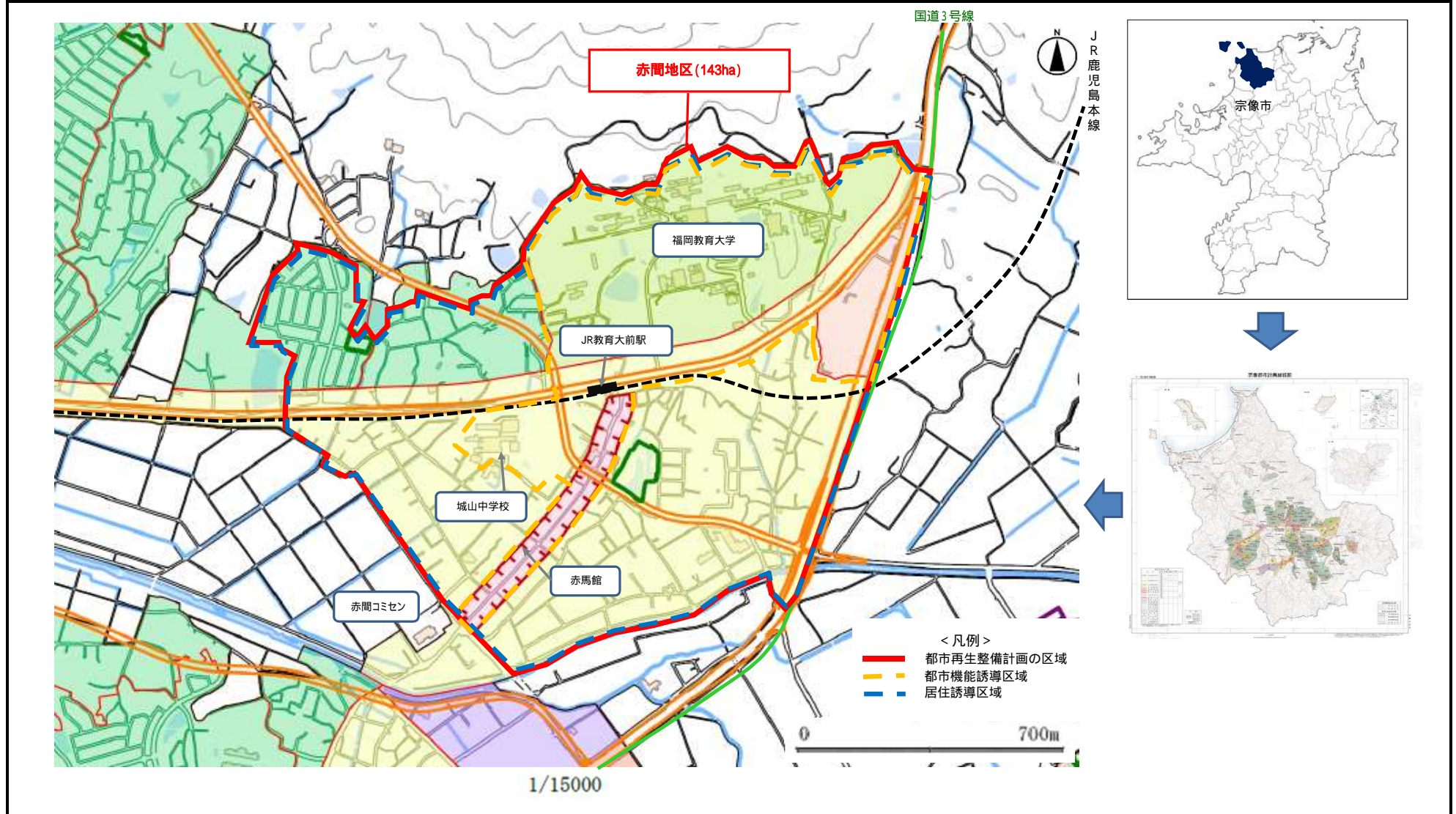
〔宗像市総合計画〕

- ・市民が安心して日々の生活を送るため、安全で安心なまちの環境を整備します。
- ・自然災害への対応と危機管理体制の強化への取組みとしては、災害発生時の市民生活への被害を最小限に止めるために、防災に対する啓発や地域での活動支援等も行います。
- ・中心市街地、観光施設周辺などの歩行者が比較的に多い場所を中心に、安全性と快適性を確保した道路の整備を行って行きます。
- ・公園を整備、改修する際には、市民の意見を聞きながら、誰もが利用しやすい通路や遊具など、安全性や利便性に配慮し、地域の実態に合った整備を進めていきます。
- ・学びの場である学校を整備し、学校運営や学習環境を充実させることで、児童・生徒が安心して自ら学校に行きたいと思うことができるようになります。
- ・各種団体の活動機会や活動場所の提供、様々な情報の集約、発信に取り組みとともに、分散された活動分野ごとの情報を集約し、分野を超えた連携を支援する仕組みづくりを行って行きます。

<p>都市構造再編集中支援事業の計画 都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p>	
<p>都市機能配置の考え方</p> <p>立地適正化計画において設定する拠点周辺へ、誘導による都市機能の集積を促進するとともに、誰もが歩いて回遊しやすくなる拠点形成を促進する。このためには、地域の特性や都市計画における土地利用規制誘導内容などを踏まえつつ、既存都市機能に見合うよう配置することとしている。また、本市は、広域的な役割を担う特長ある公共施設が分散しており、これらの特化した機能と近接する地域中心の機能を連携させ、地域の個性・魅力・活力づくりに活用することとしている。</p> <p>このことから、教育施設や観光施設、公共交通施設など様々な公共施設と地域中心の機能の強化・連携を図るため、当地域に不足している地域防災施設や地域交流施設を教育施設の周辺に整備するとともに、道路・公園の機能を増進することで、災害に強い都市基盤の整備を行うとともに、地域住民と学生らが連携する場所や機会を創出し、市民らが安心して暮らせる魅力あるまちづくりを推進する。</p>	
<p>都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡教育大学や特別支援学校（開校予定）、城山中学校に近接する低未利用地を活用し、地域防災施設を整備することで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進する。 ・城山中学校の建替事業に併せ、同敷地内に地域交流施設を整備し、近傍に立地する福岡教育大学や特別支援学校、東部観光拠点施設（街道の駅赤馬館）、それぞれの連携を強化することで、地域の活性化を図り、魅力的なまちづくりを推進する。 また、赤間宿などの観光地を訪れる来訪者、地域住民、学生など人々と様々な活動とが交流できる場を提供することで、誰もが生き活きと暮らせるまちづくりを推進する。 ・公共交通施設や赤間宿などの観光地に近接する公園を整備することで、公園の有効活用を促進し、地域の活性化を図るとともに、防災機能を付加することで、安心して暮らせる魅力あるまちづくりを推進する。 	
<p>都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等</p>	

目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	目標年度	目標年度
災害時避難者対応率	%	防災拠点拡大・強化による災害時想定避難者の収容対応可能率	防災拠点の拡大・強化により、想定避難者収容対応率の確保を図り、安全安心なまちづくりを実現する。	88.8	R1	100	R6
避難時間の短縮	分	防災拠点拡大・強化及び周辺整備による災害時の避難時間の短縮	新たな防災拠点設置及び周辺道路整備による近隣住民の避難時間（災害時に命を守る上で重要となる災害発生初期期に係る避難時間）を短縮する。	23	R1	12	R6
地区人口	人	赤間地区における将来人口	都市基盤整備、地域活性化等により、魅力あるまちづくりを図ることで、将来は減少傾向にある人口を維持する。	17,281	R1	17,281	R6
地域交流スペースの利用者数	人/月 (延人数)	地域交流のための施設の利用者数	学校施設を中心とした地域住民や学生らのつながりを強化し、特色あるまちづくりの実現を図る。	426	H30	476	R6

赤間地区(福岡県宗像市)	面積	143 ha	区域 赤間文教町、赤間、赤間4～6丁目、陵巖寺1～2丁目、4丁目、石丸1～3丁目の全部と赤間2～3丁目、陵巖寺3丁目の一部
--------------	----	--------	--



都市構造再編集集中支援事業事前評価シート

計画の名称:赤間地区都市再生整備計画 事業主体名:宗像市

チェック欄

. 目標の妥当性	
都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	
2)上位計画等と整合性が確保されている。	
地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	
. 計画の効果・効率性	
目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	
事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	
. 計画の実現可能性	
地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	
円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	